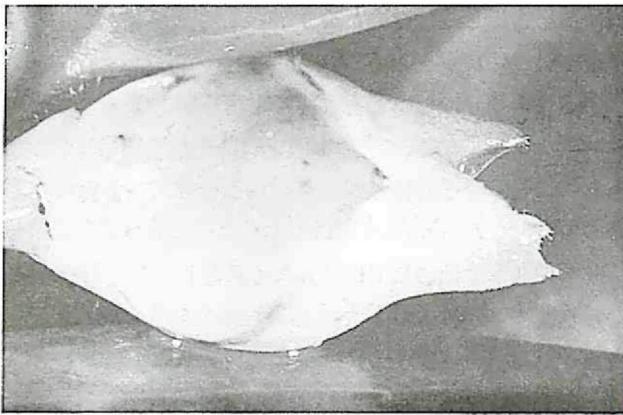


雪国の植物 ユキツバキ 33

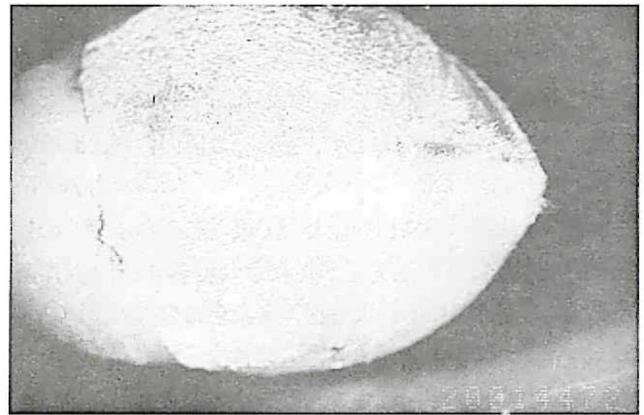
ユキツバキ、ユキバタツバキ、ヤブツバキの花芽の毛茸

石 沢 進

ユキツバキとヤブツバキの形態的な違いについて、これまで様々な形質が指摘され、それらをまとめて報告している(石沢 2005)が、ここでは、再度花芽の相違点を詳しく取り上げてみたい。開花前の花芽は、ユキツバキが細長くて小形であり、ヤブツバキは丸くて大形であり、両者を並べて比較すると明らかに差異が分かる。ユキツバキとヤブツバキの花芽には、表面(萼苞の外側)に毛の有無により区別できる。ユキツバキの花芽は無毛であり、ヤブツバキの花芽は有毛である(写真1)。ただし、低地のユキツバキには、萼苞の先端部に毛が一部生えていることがある。両者の中間型と見られるユキバタツバキの萼苞の毛茸は個体によって無毛に近いものから密生しているものまで様々であり、多様性に富んでいる。



1-1



1-2



2-1



2-2

写真1 ユキツバキとヤブツバキの花芽の表面(萼苞の外側)に毛の有無

	ユキツバキ	ヤブツバキ
花芽(×7)	1-1(無毛)	1-2(有毛)
開花初期	2-1	2-2

さらに、次のような点に注目すると、両者の違いが明らかである。開花が始まり、萼苞の先端部から花卉が見える段階(開花初期)で比較すると、花卉の表面(花卉の外側;開花したら裏側)にもユキツバキは無毛で、ヤブツバキは有毛であり、両者のほぼ中間形のユキバタツバキでは少ない(写真2;1-1~3-3)。同じ段階で萼苞の縁毛がユキツバキで散生し、ヤブツバキで密生している(写真2;4-1~4-3)。

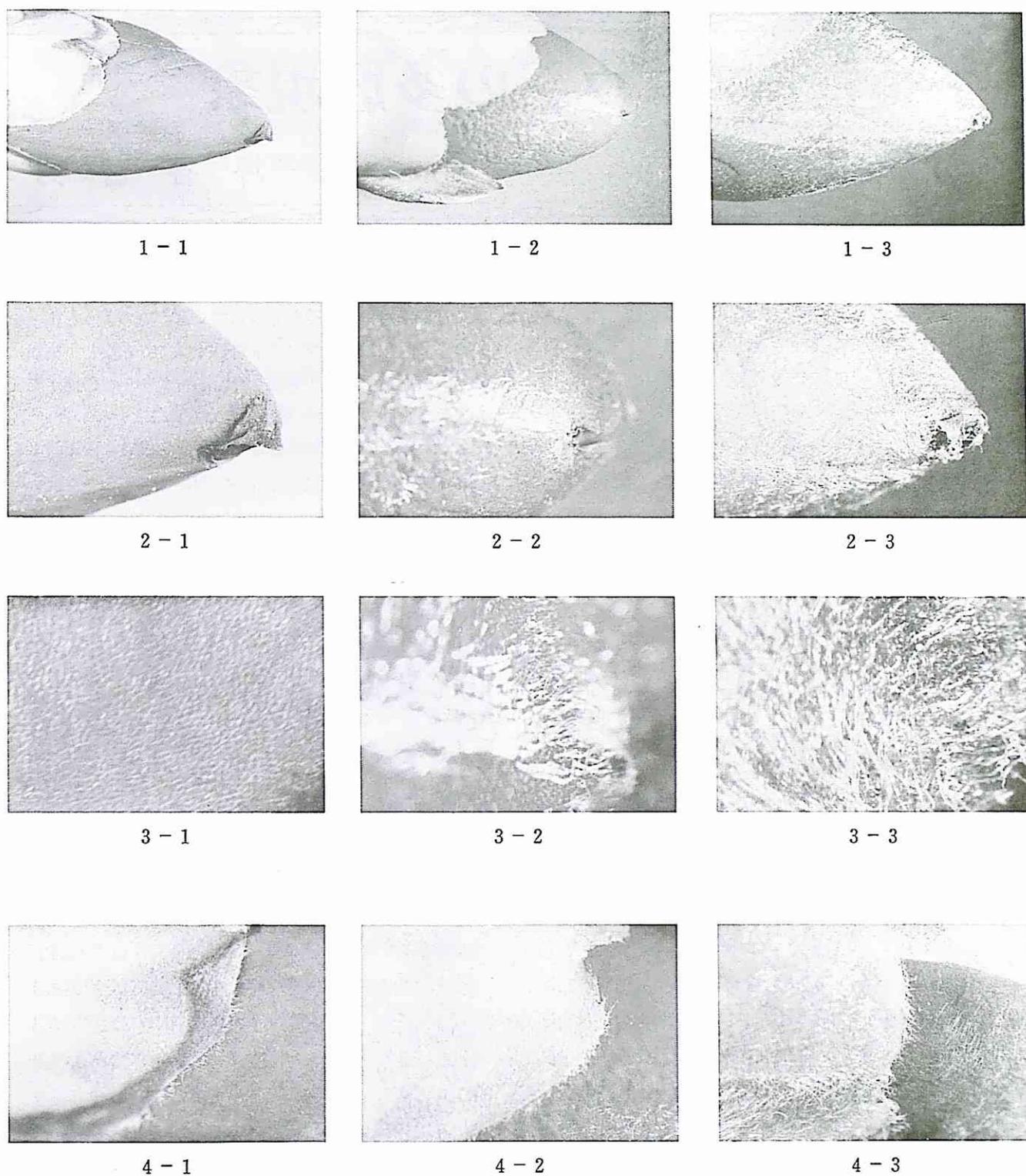


写真2 ユキツバキ、ユキバタツバキ、ヤブツバキの花弁の表面（外側）毛の有無
 [萼苞の先端部から花弁が見える段階（開花初期）での比較]

	ユキツバキ	ユキバタツバキ	ヤブツバキ
花弁の表面 (×7)	1-1	1-2	1-3
花弁の表面 (×20)	2-1	2-2	2-3
花弁の表面 (×90)	3-1	3-2	3-3
萼苞の縁 (×7)	4-1	4-2	4-3